

## 会 議 録

会議の名称	令和5年度 第3回 所沢市地域福祉推進委員会
開催日時	令和6年1月29日(月) 14時 ~ 15時30分
開催場所	こどもと福祉の未来館 多目的室1・2号
出席者の氏名	中島 修(委員長)、赤坂 悦(副委員長)、荒井 由佳子、大倉 美奈子、菊池 芳久、古賀 真美子、小松 君恵、高橋 祐二、高柳 進、田中 保三、納富 信夫、根本 明子、村澤 洋
欠席者の氏名	内山 直樹、大島 隆代
説明者の職・氏名	地域福祉センター 主査 新井 一也、主任 伊藤 庸介
議 題	(1) 第3次所沢市地域福祉計画について (2) その他
会議資料	<p>【配付資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会議次第</li> <li>・ 資料 第3次所沢市地域福祉計画について</li> <li>・ 参考 『令和5年度埼玉県重層的支援体制整備事業研修会』資料抜粋</li> <li>・ 所沢地区更生保護サポートセンター リーフレット</li> <li>・ 所沢地区更生保護サポートセンター 会報(第33号)</li> </ul>
担当部課名	福祉部 地域福祉センター 電話04(2922)2115 前田福祉部長 内野福祉部次長 菅原センター担当参事 新井主査 伊藤主任 竹村主任

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	<p data-bbox="389 257 579 293"><b>1 開 会</b></p> <p data-bbox="411 309 619 340">開会を宣言した。</p> <p data-bbox="389 405 579 436">○欠席者の報告</p> <p data-bbox="411 452 659 483">内山委員、大島委員</p> <p data-bbox="389 548 579 584"><b>2 開会挨拶</b></p>
中島委員長	<p data-bbox="389 645 1449 1012">現在、地域共生社会の実現に向けた取組みが様々なところで進んでいる。昨日は、行田市において、厚労省の地域共生社会推進室長や県職員も出席しウエルシア薬局株式会社に活動報告をいただいた。改めて地域福祉を進めていく上で民間企業との連携も大事にしていく必要があると考えている。本年4月には障害者差別解消法の合理的配慮の提供が民間企業においても義務化されるが、障害分野は地域福祉の重要な点である。コロナ禍以降、高齢者を中心に地域の担い手が活動を廃止している動きもある中で、民間企業に合理的配慮について理解を深めてもらうなど地域への貢献に尽力いただくようになることも地域の動きとして含めて考えていきたい。</p> <p data-bbox="389 1028 1449 1108">本日は、重層的支援体制整備事業（以下、重層）に係る包括的支援体制について、事務局から説明を受けた後、委員各位から意見を伺うのでよろしくお願ひしたい。</p> <p data-bbox="389 1173 552 1205">○傍聴希望者</p> <p data-bbox="418 1220 469 1252">1名</p> <p data-bbox="389 1317 552 1348">○資料の確認</p> <p data-bbox="411 1364 671 1395">配付資料を確認した。</p> <p data-bbox="389 1460 579 1496"><b>3 議 題</b></p> <p data-bbox="402 1512 951 1543"><u>（1）「第3次所沢市地域福祉計画について」</u></p> <p data-bbox="389 1559 1449 1639">資料により、計画前期3年間（令和3年度から5年度）の社会情勢を振り返り、計画後期の取組みの方向性について報告。</p> <p data-bbox="402 1655 485 1686">【概要】</p> <p data-bbox="389 1702 1449 1921">昨今の日本は、経済情勢の変化やグローバル化により、新卒一括採用、年功序列の賃金、終身雇用といった日本型雇用慣行が大きく変化し、人口減少、少子高齢化、核家族化、未婚化・晩婚化による単身・高齢世帯の増加に伴い、血縁、地縁、社縁といった、人と人、地域のつながり「共同体」の希薄化が顕著となった。さらに、コロナ禍によるあらゆる活動制限によって、地域のつながり「共同体」の弱体化が進行。</p> <p data-bbox="389 1937 1449 2063">コロナ禍の影響は地域福祉計画指標上にも表れており、主にイベント参加型、人との接触を伴う指標については、令和元年度現況値に対して令和3年度実績値が軒並み減少。活動制限が緩和されはじめた令和4年度は概ね回復傾向にあり、5類感染症に移行した</p>
事務局	

	<p>令和5年度も実績値は増加するものと思われる一方で、「自治会・町内会の加入世帯数」は、減少傾向に歯止めがかかっていない。これは、コロナ禍の影響による担い手不足の加速化と言える。</p> <p>所沢市の1号要介護等認定率の推移を見ると、コロナ禍の令和2年度以降の上昇幅が急激で、社会福祉協議会（以下、社協）や市の担当者からはコロナの影響で高齢者がひきこもりがちになったほか、親族間の訪問も控えられたことなどにより、認知症等の症状が進行したケースも見受けられたとのこと。こうした社会情勢等の変化により、福祉における複合課題の顕在化が取り上げられるようになった。この複合課題に対しての包括的相談支援体制に係る指標として、「福祉の相談窓口」「暮らしの相談事業」「所沢市庁内地域福祉推進連絡会議」等を掲げている中、課題として、「包括的な相談支援体制は一定程度整備が進んできているが、より相談しやすく、支援を受けやすい体制づくりのため、庁内関係課がより連携を深め取り組んでいく」ことを第3次地域福祉計画に掲載している。</p> <p>今後の市の方向性として、庁内外関係課及び機関とのさらなる連携のため、複合課題のケースにおいて、各々がどのように関われるか、関わっているのかについて情報共有を目指し、その手段として「所沢市庁内地域福祉推進連絡会議」の活用を考えている。</p>
中島委員長	<p>資料スライド4の要介護等認定率等の推移に着目したい。これは他自治体と比較しても顕著であり、断言はできないがコロナの影響と予想されるとのこと。この点について、大倉委員から現場感覚としての見解を伺いたい。</p>
大倉委員	<p>よく言えば介護保険制度や包括が周知されてきた面もあると思うが、コロナ禍でサークル活動も人とのつながりもなくなったことで認知症が進んだ、足腰が衰えて介護保険サービスを申請したというケースが増えたと実感している。</p>
中島委員長	<p>認定率が上がっているということは、「必要」と認定される程度も上がってきていると想像するが、民生委員の立場から赤坂副委員長いかがか。</p>
赤坂副委員長	<p>民生委員の立場からしても増えたように感じている。</p>
小松委員	<p>民間の介護事業所の経営が厳しい、数が減っているといった話を耳にすることがあるが、所沢市の状況はいかがか。また、自治会・町内会の加入世帯減少については、所沢市だけではなく全国的な傾向なのか。</p>
事務局	<p>人材不足で受入れができず、一時的に休業している話はあるが、事業所自体が減少していることはない。</p>
高柳委員	<p>自治会・町内会の話になるが、若手が役職に就きたがらない。包括や社協もあるが、やはり地域としてできることを継続していきたいので、無理のない範囲で例えば、児童の登下校中のパトロールのために30分だけ顔を出してもらいたい。そうやって皆で支え合</p>

中島委員長	<p>っていきたい想いで今後も方々に働きかけていく。</p> <p>全国的に自治会・町内会への加入率が減少傾向にあることは間違いないが、一方で、最近の集合住宅では管理組合や自治会等に加入することを前提に作られるのが人気になっている話もある。</p>
村澤委員	<p>自治会等への加入については、誘いを受けるといったきっかけがないと自発的には難しいのではないかと思う。</p> <p>介護の話題について、現在我が身に起こっていることだが、親族間の介護で介護者が体調を崩してしまい、今度はこちらが認知症を発症するかもしれないと悩んでいる。少子高齢化が進んでいる中、医療機関との結びつきを強めるなどしてこのような負のスパイラルを断ち切らないと増々悪い方向に向かっていくのではと心配している。</p>
大倉委員	<p>介護保険があってもやはり親族が見なければいけない部分はあると思う。要支援者にヘルパーが付いても1回45分といった時間制限や、そもそも福祉資源が乏しいこともある。包括としても介護者の集いを計画するなど、少しでも負担が減るよう努力はしているが、被介護者の親族がうつ病になってしまったという相談を受けたケースもある。被介護者とその親族が元気に地域で暮らしていけるよう、医療・介護関係者との連携の場を設けるなど取り組んではいるが、まだまだこれからというところである。</p>
中島委員長	<p>元々、介護保険は社会で支えていくことを前提に作られたが、コロナ禍によって親族介護の方に負担が偏ってきている状況があるかもしれない。</p>
小松委員	<p>庁内地域福祉推進連絡会議では、児童虐待やヤングケアラーといった議題も取り上げられるのか。</p>
事務局	<p>直近の予定としては、会議体本来の委員ではなく、児童虐待やヤングケアラー等も含めた複合課題に対して庁内外と連携し対応に当たっているケースワーク担当者を招集し、現況確認やさらなる連携を図っていくために検討すべきことについて意見交換することを考えている。</p>
中島委員長	<p>各々の担当課で従来どおりの対応があるわけだが、ヤングケアラーやひきこもりといった新たな課題にどのように対応していくのかについて、こういった横断的な会議体を活用いただきたい。</p> <p>親族支援について、障害分野の点から菊地委員のご意見を伺いたい。</p>
菊池委員	<p>障害のある子を持つ親が子離れできずに、セルフプランになってしまっているケースがよくある。本来は、我々のような相談支援専門員とともに定期的な見直しをしながら対象者の自立を目指すのが理想だが、なかなかできていない。知的障害者においては、高等部を卒業後にグループホームへ入居するケースが一般的で、そこで初めて他人の支</p>

	<p>援を受けることになる。それまでの環境調整は親族が知識もなく自己流で行っているため、他人がいる生活にパニックを起こしてしまう。そういった状況から専門員の介入で少しずつ新しい環境調整を身に着けていってもらうことを繰り返している。一方で、親亡き後といった話があるが、実際にそういったケースは意外となく、寧ろ元気な方が多い。ところが、子どもが手から離れたことで生きがいがなくなってしまうこともあり、どちらがよいのかとも感じている。</p>
中島委員長	<p>障害分野は、高齢者介護とはまた意味合いが異なっており、親が子の面倒を一生懸命見てきた過程があることで、母子分離しにくくなっている。さらに介護保険ではケアマネによるプラン作成が大前提だが、障害分野ではセルフプランが多く、中にはグループホームに入居したにもかかわらず、放置状態といった残念なケースもある。障害と高齢者、それぞれ異なった課題があるが、いずれも親族介護だけでは難しく、上手く専門職が入ってバランスを取ることが共通事項である。</p>
古賀委員	<p>知的障害者が単身で高齢を迎えた際、自立できていない状態だったとしたらどのような対応が取られているのか。</p>
中島委員長	<p>親亡き後の議論になるが、菊池委員いかがか。</p>
菊池委員	<p>地域生活支援拠点として、ショートステイやグループホームといった親亡き後の障害者を受け入れる体制は整えられている。元々、グループホームでは日中の対応はないことが前提で、それは利用者が若年層であることが理由だが、高齢を迎えても利用したいとの声が挙がったことで日中もサービスを受けられることが制度化された。理由は不明だが、以前は知的障害者は短命と言われていたが、現在では高齢の知的障害者は一般的であり、高齢化に対応していく仕組みは整備されている。</p>
荒井委員	<p>昨年、親族介護に携わっていた。自身は理解ある職場だったこともあり、介護休暇を取得することができたが、兄弟はほぼ取得することができず男社会には浸透していないと実感した。また、遠方だったこともあり交通費等の負担が大きく、何かしらの補助があれば助かっていた。在宅介護においては、被介護者が他人の介入を拒否するケースもあると思われるが、親族だけでは負担が大きく、特に一人で抱え込むような状態では介護者の人生を駄目にしてしまうので、第三者のフォローが上手く入ってくれればと思う。</p>
中島委員長	<p>第1次所沢市地域福祉計画では、大きな範囲で医療面や介護面も織り込んでいたが、第2次計画時により実行しやすいようスリム化したことで、医療介護連携の観点が悪弱まっていると感じている。次期計画を検討する際には、改めて介護者の視点、地域住民視点に立って議論していきたい。多問題、複合課題への取り組み方について、社協の立場から高橋委員に見解を伺いたい。</p>
高橋委員	<p>社協は市内各地域にCSWを配置し、既存の制度に当てはまらない狭間の案件、どこ</p>

	<p>にも繋がられない案件を断らずに受け止める部署になっている。先程から話題に挙がっている、心の病気を抱えている世帯や8050問題を抱えた世帯、長期間にわたって医療機関に繋がらず地域で孤立している世帯など、まさに複雑化、複合化しているケースが顕在化しているのが現場感情である。そのような、一つの関係機関だけでは対応困難なケースに携わる職員が疲弊している状況がある中、多機関協働の体制が醸成されれば支援者側の支援にもなる。支援者が関わりやすくなれば被支援者への支援にもなるので、庁内地域福祉推進連絡会議の活用は良いと思う。</p>
村澤委員	<p>これまでの話を伺って究極的にはお金の問題と感じた。金額に応じて、あるいは介護認定の級数によって、こういった介護が受けられるといった相談ができる体制を取っていただければと思う。</p>
中島委員長	<p>例えば、病院ではMSWから介護保険に繋いでケアマネが説明をする、あるいは包括と繋がっていればそちらからのアプローチもあるかとは思いますが、今の話はもっとダイレクトに金額を提示してほしいというご意見かと思う。</p>
村澤委員	<p>支援者も率直に聞かれていいのでは。</p>
大倉委員	<p>お金の話は大事で、施設を探す際もいくらお金を出せるかによって選択肢も全く変わってくる。ただ、デリケートな部分でもあり最初から聞くのは難しい。説明は必ず行うことになるが、そこは相手との信頼関係も関わってくるので、どのケアマネや包括職員も説明時期は慎重に考えていると思う。</p>
中島委員長	<p>根本委員にお伺いしたい。専門職に相談することではないが介護で悩んでいるといった相談を、ご近所やボランティア活動等で受ける機会が多いのではないかと。</p>
根本委員	<p>まず、近隣の自治会は非常に活発で、お祭りや焼き芋大会、餅つき大会など様々な行事を行っていたが、コロナ禍を受けて以前のように活動できなくなった状況の中、高齢化もあり役員が一斉に降りると言い出し、それならと役員の輪番制を決定したところ、今度は複数の班が全体で自治会を抜けるといった事態になっており、どうすれば以前のように戻せるか心を痛めている。従来から住まいの地域は、非常にコミュニケーションが取れており、認知症の方や少し障害がある子どもなどを周囲が気にかけて受け入れてきていた。そういった雰囲気があれば、皆で助け合って些細なことぐらいは解決できると思うので、以前のような雰囲気の良い地域づくりに何か貢献できないかと考えている。</p>
中島委員長	<p>専門職は本当に頑張っているが、やはり地域包括ケアには地域の支え合い、色々な方々の支援や活動があって成り立っている。</p>
田中委員	<p>保護司の立場からの意見だが、対象者を更生に導く仕事であることから豊富な経験値は必須であるが、権限があるわけではなく介護の問題やヤングケアラーの相談に踏み込</p>

	<p>むための何かが必要な段階に来ていると感じている。社会性の乏しい人ほど周囲の支援を拒否する傾向があるが、仮に劣悪な環境で放置できない状況であっても入り込めない。</p>
中島委員長	<p>まさにアウトリーチの点でCSWが取り組んでいることであり、ひきこもり対応として「リーチ！」も設置されているが、高橋委員いかがか。</p>
高橋委員	<p>本当に難しくデリケートな問題を抱えているケースが多く、近隣住民から話を伺って訪問しても、当事者になかなか会えないことも多い。しかしながら、こういった困難課題は直ぐにすべてが解決するものではないので、地域で孤立していれば、まずは地域のサロンに繋いでいくといった関わりを意識している。問題が解決しないまでも地域の方々と関わり、同じ住民目線で話を交わすことで気持ちが落ち着き、そこから我々に相談してくれるようになったケースもある。</p>
中島委員長	<p>社協と連携している地域福祉サポーターとして、納富委員いかがか。</p>
納富委員	<p>委員各位が責務として非常に真剣に取り組んでおられている中、少し立ち位置が異なるが、ボランティア団体として、老若男女、障害の有無、お金の有無なしに関係なく繋がりが合った方々が集まって、皆で楽しめる憩いの場を提供し、一緒に色々なことをやろうという活動を行っている。そのような繋がりが続くと、「いつもと様子が違う」といった変化に気づき、CSWや専門職に話を繋げることもある。そういったサインは見逃さずに繋げていきたいが、何よりも皆で楽しく地域と繋がり合えることを念頭に活動している。</p>
中島委員長	<p>専門職が24時間365日、地域に張り付いているわけではないので、普段の様子を見てくれる方がいて、様子が違うと思ったら専門職に繋いでいただくというのは大変重要な点である。</p>
事務局	<p>(2) 「その他」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 未来館まつり及び地域福祉みらいフォーラムの開催報告を行った。</li> <li>・ 次回の会議日程。令和6年7月中旬に催予定。</li> </ul>
田中委員	<p>所沢地区更生保護サポートセンターの会報及びパンフレットを配付させていただいた。現在、所沢市役所福祉総務課の一角をお借りし、地域の非行防止の相談窓口として開設している。20名の企画調整保護司が平日の月曜日から金曜日、午前10時から午後4時まで常駐している。委員各位にも活動内容をさらに認知いただければと思う。</p>
赤坂副委員長	<p>幅広い分野の立場から活発なご意見を伺え大変勉強になった。ご多忙の中、委員会に</p>

4 閉会挨拶

中島委員長

出席いただき感謝申し上げます。

議題はすべて終了した。進行を事務局にお返しする。

事務局

5 閉 会

閉会を宣言した。